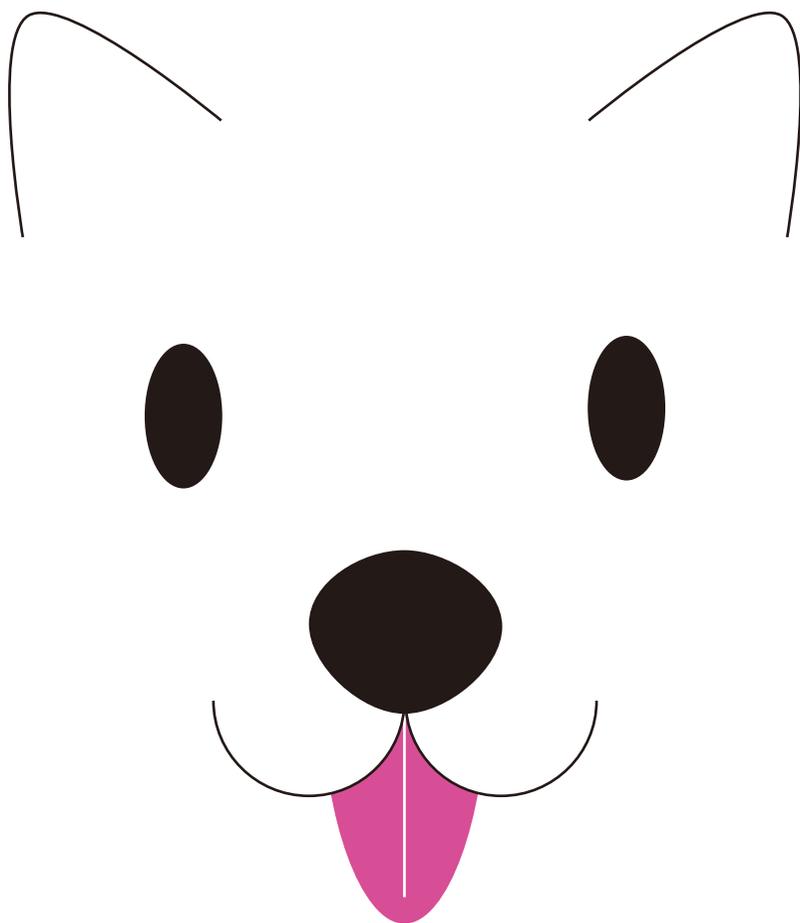


元福祉犬ドッグトレーナーが教える 保護犬を迎える10のコツ

.....



元福祉犬ドッグトレーナー
末松 浩二

はじめに

嬉しい時も悲しい時も、私のそばにはいつも犬がいてくれました。

たくさんの大切な事を私は犬たちから気付かされ教えられています。

犬たちは現代社会において本来人間が持っていたはずの忘れてしまった感覚や感情を常に持ち合わせており、今までや、これから先のいろんな状況や環境よりも、『いまをどう生きたいのか?』そしていまを生きている生きものです。

犬たちは私たちに『ありのまま』でいい事をいつも伝えてくれます。

犬たちと出逢ったからこそ知り得なかった気付きや、しあわせな物語りを一人でも多くの方にシェアできたらと思いペンをとりました。

人と同じく犬もまた尊い命です。

犬たちからのご縁が繋がり、みなさまのわんダフルライフのお手伝いになれば幸いです。

元福祉犬ドッグトレーナー 末松 浩二

元福祉犬ドッグトレーナーが教える 保護犬を迎える10のコツ

1.保護犬とのファーストコンタクト

初めてお家に迎え入れた犬は、人もあなたのお家の中も何もかもが初めて見るものや聞くものばかりです。あなたが異国の地でたった一人で、新しい暮らしを始めるようなもの。想像してみてください。どうですか？たくさんの不安や心配が湧き上がって来ませんか？

これから新しい家族となる目の前の保護犬も同じ心境だと思います。保護犬もあなたのお家に来るまでにたくさんのいろんなことを経験して、今ここあなたの目の前にいます。

あなたやご家族が目の前のワンコを選んだように、ワンコもまたあなた達を信じて選んで来たのです。このご縁を信じて、これからのワンだふるライフをお過ごしください。

2.保護犬が安心できる距離感を

新しく家族として犬を迎えるとどうしても可愛すぎてさわりたいくなりますよね。さわられる事が大好きな犬もいれば、まだ『人間』という生き物が何者なのかわからずに警戒し、ドキドキしている犬もいます。

また人間と同様にいろんな性格の犬もいて、甘えん坊やおこりん坊、常に一緒にいたい子、クールな子、いろんな犬がいます。目の前の犬をよく観察して、どうしてほしいか？どうしたら安心するか？を感じとってあげてください。触られていることに慣れていない犬ははじめのうちは遠くから声をかけてあげて、徐々に距離を縮めていってください。

飼い主さん達も初めはわからない事が多々あり、不安や心配はあると思いますが、大丈夫かな？とその不安や心配を抱えた気持ちを持って犬たちに気遣って接すると、その不安や心配な気持ちを犬たちがまたそのまま拾ってしまい、不安がつのってしまいます。

犬が新しい環境になれるまでの始めのうちは、犬のしつけの前に、『ここはもうあなたの安心出来るお家だから大丈夫だよ』と毅然とした気持ちで声をかけたり、さわれるようであれば優しく撫でてあげたりと、まずは犬たちに『安心』を届けてあげてください。

3.焦らない

犬たちは新しい環境に慣れるまでの順応性は早いですが、どの犬たちも何かを覚えるまでには反復の繰り返しです。人間と暮らした事がない犬は、特に右も左も、何が良くて何が悪いのかも全くわかりません。

最初のうちはいたずらや粗相はどうか怒らずにいてあげてください。

逆にしてほしい事、できたことに関してはみんなで大きく褒めてあげてください。その繰り返しで、犬たちも良し悪しを段々理解することができますし、日々の暮らしの在り方に犬が慣れてくると、『人間=安心・大丈夫』『新しいお家=自分の家・安心な居場所』という気持ちに繋がっていきます。

慣れるまではそっとしておく、むやみにさわりすぎない事も私たち人間ができる犬たちへの優しさです。

4.犬は匂いで理解する（感情、気質、体質などがわかる）

犬同士の始めのご挨拶を知っていますか？

初めて会う犬同士はお互いのお尻を嗅ぎに行くのが大半です。お尻の匂いは人間でいう名刺みたいなものです。その犬がどういう気質の犬なのかがおおよそ匂いでわかります。

初対面での真正面からの挨拶は犬社会においては敵意を持って喧嘩をふっかけていく行動の一つでもあります。

触れるような距離になってきたら、まずはそっと後ろの方から自分の匂いを嗅がせるようにして、触れるようでしたら手の甲を少しずつ差し出して嗅がせ、優しく声をかけながら手の平で撫でていき安心と優しさを届けてあげてください。

人間の感情も匂いで分かるようです。あなたの心からのおもいをそのまま、手や言葉から犬たちに伝えてあげてください。

5.たくさん話しかける

犬たちをしつける際には声符（せいふ（マテ、オスワリなどの声））や視符（しふ（手をパーにする＝マテ、人差し指を出す＝オスワリ））などありますが、しつけ以前に人間と共に暮らしている犬たちは人間の言葉も理解していきます。

留守番させる時など、黙って家を出るより「行ってきます」「〇時くらいに帰ってくるね」等、伝えてあげると犬たちもちゃんと理解し伝わるようになります。

日常において、家族と同じように犬にもたくさん話しかけてください。話しかける事が日常化すると真っ直ぐな眼でこちらを意識して見るようになったり、遠くからでも耳をピンと立ててたりと、なんとも言えない可愛らしい仕草を見せてくれたりします。

6.トイレについて

室内飼育をする際はトイレシートにすることを覚えさせましょう。トイレをさせたい場所や、排泄をさせたい場所・しそうな場所、粗相をしてしまった場所など、いくつかシートを置いておきます。また、排泄をさせたい場所に、排泄をした匂いを少し付けたトイレシートを置いておくと、その場所＝トイレの場所と認識するようになります。トイレシートに排泄をした際は優しく褒めてあげてください。それを繰り返すたびにトイレシートが排泄する場所ということを覚えていきます。

また粗相をした場合は、決して怒らずにそのまま片付けてあげてください。甘えん坊の犬やかまってほしい犬たちは粗相をする→怒る→構ってくれる→粗相を繰り返すという行動を起こす事もあります。

7.散歩について

始めのうちは首輪プラス胴輪のダブルリードで万が一逃げてしまう事を二重で防ぎましょう。

あなたの新しいお家に慣れるまでは昔いた場所（家）に帰りたいと思う犬もいて、スキあらば逃げる行動をする時もあります。また車や自転車等の人間界の音や他の動物たちを見て、驚いてしまい逃げようとする事もあります。万が一逃げてしまった時のために、住所や電話番号明記の迷子札を首輪に付けておきましょう。

外の世界も初めてのものばかりです。始めのうちは、人通りの少ない場所で慣れさせ、徐々に行動範囲を広げると犬も安心して散歩できていきます。

散歩をしている他の犬との接触が大丈夫な場合は、飼い主さんに承諾を得てから、犬達とのコミュニケーションをとってあげてください。

8.留守番について

留守番をさせる際は、始めは10分、30分、1時間と徐々に時間を伸ばして、大丈夫かどうか様子を伺ってみましょう。

「ってきます」「ただいま」を言葉で伝える事も理解しているので大切な事です。

また、留守番をさせる事を可哀想と思うと、犬たちも自然と留守番が寂しい・嫌いへと繋がってきます。私たちが仕事に行く・子供たちが学校に行く事と同じように、犬たちにとっても『留守番』ということは普段の生活の中のひとつの使命です。

『留守を犬たちに心おきなく任す』くらいの気持ちでいてあげてください。そうすると犬たちも、お父さんお母さんが帰ってくるまでこの家を守るんだ！っておもいを持ったり、はたまた意外とひとりの時間を楽しく過ごしてるのかもしれない。

それでも留守番が不慣れなコには、留守番をする前やした後に普段よりも特別なオヤツをあげたり、

散歩や運動をした後に留守番か、帰って来た後に散歩や運動をする等、留守番=楽しい事がある感を届けていると、留守番も苦にはならなくなってくるでしょう。

9.寝場所について

トイレの場所と同じように、寝る場所も犬たち自身の匂いがする場所を好みます。

クレートやゲージで寝かせたい方は、犬の寝場所で使っているクッションやシート等をそのままクレートやゲージの中に入れておくと、その中が寝る場所なんだと理解していきます。なかには、クッションの中の綿など引っ張り出してしまうコもいて誤飲の恐れがあるのでその際は取り出して下さい。

クレートで寝る事を覚えさせておくと、お出かけの際や、万が一自然災害等で一時避難を余儀なくする時にも、犬たちが落ち着いて寝れる事が可能です。

また、犬たちを自由な場所で寝かせられる事が可能な方は、犬たちが寝たい場所で自由に寝かせてあげてください。犬たちも、普段あなたと同じようにいつも家族を見守っています。

時には、気を抜いてひとりで落ち着いて寝たい時もあります。そばで寝たい犬、ひとりで寝たい犬、それぞれいろんな性格の犬たちがいるのでその個性に合わせた安らげる空間作りを心がけて下さい。

10.犬と共に暮らすと心と人生がもっと豊かになります

犬と共に暮らすと、いろんなことをたくさん学び、教えられます。犬が来たからこそ、家族との会話がもっと増えたり、お出掛けも増えたり、泣いたり笑ったりと、今までよりにぎやかに感情が豊かになります。

気分が落ち込んだ時にはそっとそばにいてくれたり、せかせかイライラしている時にはアクビをして『もっと力抜いて気楽にいこうよ』って言ったり、犬たちから伝えられる事も多々あります。

アクティブな飼い主さんにはヤンチャやおてんばな陽気な犬になったり、子供たちが多い家族だと一緒にイタズラをしたり歌ったり笑ったりと。犬の顔や仕草も飼い主さん達に似てきたりするコもいます。

あなたのしていることがそのまま犬たちに反映します。犬たちに良かれと思ってムリをしながら面倒をみると、犬もあなたに対してどこかで我慢や無理をします。

あなたが犬たちに向けてかけるやさしさや愛情を、どうか等しく自分自身にしてあげてください。

『犬は自分の鏡』です。

はるか昔から私たちのそばにいる犬たちは、あなたのしあわせこそがなによりのしあわせなのです。

あとがき

ここまであげた10の項目以外にもまだまだ犬たちとの素晴らしい物語りは伝えきれません。また、この項目をすべてやられたとしてもうまくいかない場合もあるかもしれません。

それは犬たちも私たち人間同様、ひとりひとりの個性や感情を持っている生き物だからです。

巷には様々な『犬のしつけ』の本があり、その中で一般的な犬の習性等を学ぶことは適していると思いますが、感情の部分においては、100人の人間が100通りの個性を持つように、犬たちもまた同じです。

だからこそ、1頭1頭の犬たちと向き合い、心の声に耳を傾け、その時に自分が感じた事をそのまま信じて、目の前の犬たちにしてあげる事こそが、その犬とあなたにとって最良のワンだふるライフだと私は思います。

『犬たちのわからない』を紐解いて行き、犬とオーナーさんとのより良い関係性を築いて行くことのお手伝いできたときが私にとっても最高なわんダフルライフです。

Profile

元福祉犬ドッグトレーナー
末松 浩二（すえまつ こうじ）

犬のテーマパーク勤務から始まり犬を見せる事よりも、犬本来の持っている力を引き出し、魅せるサポートができたらとNPO福祉犬育成協会へ。ブリーダー、盲導犬・介助犬・捜索犬・水難救助犬・セラピー犬・癌探知犬の育成トレーナーとなる。

約30頭近くの犬たちと毎日生活を共にする中で犬たちから、“遊び方”、“怒り方”、“調”、“自然体”など大事なことを犬から教わる。

元福祉犬ドッグトレーナーが教える 保護犬を迎える10のコツ

著者 末松浩二

© 2018 kouji suematsu

2019年3月31日 第1版

編集 Lani One

発行 Lani One

【内容に関するお問い合わせ先】

aloha@lanione.com